



ステープラー

すてーぶらー



概要

ステープラーは、重ねた紙などに「コ」の字型をした、綴じ針（ステープル）を打ち込むことで、綴じ合わせる道具です。一般にホッチキスとも呼ばれます。

数枚の紙を綴じるのに、糊などでは「乾かすのに時間がかかる」「剥がすのが容易でない」「手が汚れる」、クリップなどでは「留めが弱い」などの問題があります。冊子などを作る場合も、糸綴じなどでは手間がかかってしまいます。ステープラーは、こういった作業を容易に行いたい時に便利な道具といえます。ステープラーのサイズは、1号、3号、10号などいくつかの種類があり、3号と10号はJIS規格になっています。現在最も一般的に使用されているのは10号で、小型で手軽に扱えることから、家庭や学校・オフィスなどに普及しています。

基本的な使用法は、小型のものなら手に持ち、重ねた紙などを動かないようにしながら、ステープラーで上下から紙を強く挟み込むことで、綴じ針を打ち込みます。また、ステープラーのハンドル部分を180°開いて、針の出る部分を壁や台などにあてて、ヘッド部分を強く押し込むと、例えばポスターを貼る時などに、ピンや画びょうの代わりとして使うこともできます。（この時、壁や台が堅すぎると、ステープラーの針が通らず故障の原因となるので注意しましょう。）ステープラーは、綴じる時に途中で力を抜いたり、綴じるものが硬すぎると、針が浮いたり、針の出口が詰まることがあります。また綴じ針は、多くは軟鋼鉄に亜鉛メッキをしたものなので錆びやすく、時間経過により書類に汚れなどがついてしまう場合があります。（サビや腐食に強いステンレス製もあります。）針を補充する際は、そのホッチキスの大きさにあった号数の針を使用しましょう。

ステープラーは、機関銃の発明者として知られる、米国のベンジャミン・B・ホッチキス（1825-1885）によって発明された、というのが通説になっていますが、詳しいことはわかっていないようです。日本では、明治時代の中頃より輸入が始まりました。当時は「自動紙綴器」とも呼ばれていたステープラーですが、その後、幾多の改良を重ねながら、現在のものへと至っています。ステープラーは文房具店や画材店などで購入できます。

あ
か
さ
た
な
は
ま
や
ら
わ
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U
V
W
X
Y
Z
数字

取り扱いの基本1 綴じるものが薄い場合



紙をまとめ、ステープラーを手に持ち、上下から押し付けます。



手順2 紙を表側にし、針抜きを差し込んで抜きます。

取り扱いの基本2 綴じるものがやや厚い場合



ステープラーを卓上に置き、親指の腹を乗せ、真上から押し付けます。

使用例 ピンや画びょうの代わりに使う



手順1 ステープラーの脚を広げます。

取り扱いの基本3 針のはずし方



手順1 紙を裏側にし、ステープラーに付いている針抜きを使って、針の脚を広げます。



手順2 針の出る部分を壁や台などにあてて打ち込みます。(この時、壁や台が堅すぎると、ステープラーの針が詰まって、故障の原因となるので気をつけましょう。)